

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年9月1日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0872200290		
法人名	社会福祉法人 すはま会		
事業所名	グループホーム 陽だまり	ユニット名	
所在地	〒314-0012 茨城県鹿嶋市平井1350-332		
自己評価作成日	平成22年2月26日	評価結果 市町村受理日	平成22年8月20日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成22年4月15日	評価確定日	平成22年8月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

重介護者が多い中、9名の利用者がそれぞれ安心できるように目配り・見守りをしながら支援しています。 又、傾聴ボランティアの方々に訪問して頂き有意義な時間を過ごして頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

利用者は居室に閉じこもることなく、広々とした畳敷きのスペースがある居間で職員と会話をしながら楽しく生活をしている。 管理者や職員は安心と安全を最優先に考え支援している。 法人は当該事業所のほか、訪問介護や訪問入浴、通所介護、特定施設入居者生活介護、居宅介護などのサービスがシステム化され運営しているため、利用者や家族等の安心につながっている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項 目	自 己 評 価	外 部 評 価	
			実 施 状 況	実 施 状 況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆったりと安心のできる環境で楽しい毎日を仲間と過ごす」実践に繋がっています。	法人理念のほかに地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を掲げ、利用者の暮らしにどう反映させたら良いかなどを会議等で話し合うとともに実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園の生活発表会の招待に出かけたり、併設のデイサービスの幼稚園・保育園交流会に参加しています。	利用者は近隣の散歩やゴミ出し等で、地域の人々と挨拶を交わし会話を楽しんでいる。 保育園での生活発表会に出かけたり、法人で行っている収穫祭に地域の人々を招待し、交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社会福祉協議会の協力を得て、認知症の傾聴ボランティアを養成してもらい、交流している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で率直な意見をもらい、サービス向上につなげる。	運営推進会議では事業所の実情や行事等の報告、課題について話し合うとともに、出た意見等をサービスの質の向上に活かしている。 会議録を作成し保管しているが、内容を利用者や家族等に知らせたり、2ヶ月に1回開催するまでには至っていない。	運営推進会議は委員が出席し易いよう、日程などを調整し2ヶ月に1回開催するとともに、会議結果を家族等に送付している広報誌などで知らせることを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項 目	自 己 評 価	外 部 評 価	
			実 施 状 況	実 施 状 況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者と日頃から密に連絡を取り、協力関係を築くようにしています。	日頃から市担当者と連絡を取り、協力関係を築いているほか、市担当者や地域包括支援センター職員から運営推進会議の開催時に情報を得たり、事業所の課題を相談している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠・・・帰宅願望の強い利用者が入居し、対応困難のため、家族の意向もあり、電子錠をしています。拘束帯・・・病院より退院された入居者で歩行不安定のため転倒のリスクが高く御家族の意向もあり拘束帯を使用しています。	職員は身体拘束をしないケアに取り組むとともに利用者の意思を尊重する支援をしているが、不穏時には家族等の承諾を得て電子錠で施錠している。 歩行不安定のため転倒のリスクが高く、医者の指示と家族等の意向により拘束帯を使用している利用者もいる。	管理者や全職員が玄関の施錠を含め身体拘束の弊害を理解し、身体拘束をしないケアの実践に取り組むことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修を受けています。ホーム内ではミーティングや委員会で情報交換を行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修を受けています。ホーム内ではミーティングや委員会で情報交換を行っています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項 目	自 己 評 価	外 部 評 価	
			実 施 状 況	実 施 状 況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書により説明をしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で意見交換をしてサービスの質の確保・向上につなげるようにしています。	家族等からは面会時や電話で要望を聴くほか、利用者からは日々の生活の中で話し合い、出た意見等を運営に活かしている。 年1回の家族交流会の開催時に、食事をしながら意見交換をしている。	2ヶ月に1回広報誌を発行し家族等に送付しているので、面会の少ない家族等には意見を記入する用紙を同封し、要望等を汲みあげ運営に反映させることを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	人事考課面接の時に聴いて、反映させています。	管理者や主任は年に1回、人事考課面接で職員の意見や提案を聞き、出た意見等は事業部委員会で検討し運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業部委員会等で話し合っています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項 目	自 己 評 価	外 部 評 価	
			実 施 状 況	実 施 状 況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会の確保やOJTも行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他の事業所に行き情報交換等を行っています。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	チームケアで利用者の望んでいること、喜ぶこと本人の安心出きることを探し援助できるよう努めている。本人の不安が軽くなるように話を聞き安心できるように支援をする。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居当初、家族等より話を伺い、受け止めながら信頼関係を築いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の本人、家族等実情や要望をもとに、その時点で何が必要かを見極め、対応に努めています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項 目	自 己 評 価	外 部 評 価	
			実 施 状 況	実 施 状 況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人として共に過ごし、喜怒哀楽を共にしながら、本来の個性や力の発揮、暮らし方の意向を知るために職員間で共通認識を持ち関係を作っています		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係が良くなるように間に入り調整、助言をする		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	兄弟の家に招いてもらい、昼食を食べて半日ゆっくり過ごしてくる。	職員は利用者の家族等との関係や交友関係を把握するとともに、息子が利用者を教会に連れて行ったり、友人が来訪するなど、これまで築いてきた関係を継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のコミュニケーションを大切にし見守りをする。援助が必要な時は関わり支援する。日中は全員が居間で過ごすようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	住み替えをした利用者に対し本人の状況、習慣や好み、これまでのケアの工夫等の情報を詳しく伝え環境や暮らし方の継続性等に配慮して貰えるように働きかけました。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項 目	自 己 評 価	外 部 評 価	
			実 施 状 況	実 施 状 況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	チームケアで利用者の望んでいる事を話し合い本人本位に検討している。	家族等の来訪時に話を聴いたり、利用者の日々の暮らしの中で声をかけ希望や意向の把握に努め、利用者の思いや意向にそってその人らしく暮らせるよう支援している。把握が困難な場合には利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を使い情報収集をしている。なかなか利用者の生活歴を知っている人が居ないため把握が難しい。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を使い情報収集をし、できる力・わかる力を日々の中で見つけ、共通認識をはかっている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	委員会で課題を話し合い現状にあった介護計画を作成している	介護計画は利用者や家族等の意見や希望を聴き職員で話し合い作成するとともに、定期的に見直している。心身の状態に変化が生じた場合は、現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に当番が日々の記録を記入、職員が情報を共有して介助している。見直しが必要であれば活用している 「連絡ノート」、夜勤者との「引き継ぎノート」を活用している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院退院後、居室での生活が難しい利用者の場合、共用の和室で集中的に援助を行う		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティアの方々に週2回訪問して頂きお互いに有意義な時間を共有しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	馴染みの医師による継続的な医療を続けています。（内科、眼科、歯科）	利用者や家族等が希望するかかりつけ医への受診を支援している。 月2回の往診のほか眼科や歯科の受診など、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	法人の看護師に異常に気がついたとき伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項 目	自 己 評 価	外 部 評 価	
			実 施 状 況	実 施 状 況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	認知症があるため最小限の入院期間になるように病院関係者、家族等と相談しながら支援を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	平成21年4月終末期ケアを行いました。 早い段階から家族等と話し合いをし、利用者の現状を伝えながら、職員全員で状態にあった援助を行っている。	看取りに関する指針やマニュアルを作成するとともに、利用者が重度化した場合は状態に即した支援をすることを家族等に説明し同意を得ている。 医療との協力体制と職員間の連携を図り看取りケアに向けたチームづくりに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修を受けている。 法人内に看護師がいるので連絡し、すぐ来てもらっています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内で総合訓練、災害通報訓練を定期的実施しています	法人内で総合訓練や災害通報訓練を定期的実施するとともに、実施状況や問題点を記録している。 災害時には近隣の会社独身寮の人々から協力が得られる体制となっている。	夜間想定や非常階段を使用した避難訓練を実施するとともに、総合訓練には近隣住民にも参加を呼びかけ、災害時の協力体制の強化を図ることを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項 目	自 己 評 価	外 部 評 価	
			実 施 状 況	実 施 状 況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社内研修を受けている。 各自の居室がありトイレ・洗面台もありプライバシーの確保が出来る。 声の大きさ、言葉使いに気をつけ一人ひとりの性格に応じて接している	職員は利用者一人ひとりの人格を尊重し、排泄や入浴の声かけや対応に配慮している。 個人記録などの書類は事務室の人目に付かない場所に保管し、情報の漏洩防止に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話のできる利用者には言葉で聞き取り、できない利用者にはコミュニケーションを取りながら自己決定ができるように働きかける。傾聴に心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は一人ひとりのペースを把握して希望にそって援助している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好きな帽子、洋服、小物等でおしゃれを楽しめるよう支援しています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項 目	自 己 評 価	外 部 評 価	
			実 施 状 況	実 施 状 況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は皆さん一番楽しみな時間なので常食を食べることができず刻み食の方にも彩り良く美味しく召し上がってもらえるよう提供している	献立は法人栄養士がカロリー計算をし、併設事業所で調理している。職員は利用者一人ひとりの食事形態に配慮し刻み食などを支援している。利用者は能力に応じて下膳を手伝うなど、職員と協力している。外食や弁当の日を設け、食事を楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の作った献立に添って提供しています。一人ひとりの状態にあった支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後うがいを実施。夕食後は歯磨きをする。義歯の人は洗浄液に浸ける。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	立位のとれる人はトイレ・ポータブルトイレで排泄介助、トイレの場所が覚えられない人には定時にトイレ声掛け、立ち上がった時、声掛けをし失敗を減らすよう自立に向けた支援を行っている。	各居室にトイレがあり、職員は利用者一人ひとりの生活のリズムや排泄のパターンを把握し時間を見計らって誘導するなど、トイレで排泄ができるよう支援している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師と相談し排便コントロールを実施。 食事は野菜を沢山使い、10時のおやつにはフルーツヨーグルトを召し上がって頂いています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回の入浴を実施。 薬湯、菖蒲湯、ゆず湯をとりいれています。	週3回入浴支援をしている。 毎日入浴したい利用者や重度化して一般浴が困難になった利用者には、併設デイサービスの機械浴を備えた風呂を利用するなど臨機応変に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や状況に応じて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員間違いなく服薬できるよう支援しています。 症状の変化にも気をつけています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った役割や楽しみへの支援。嗜好品を楽しめるよう、周囲の利用者への配慮をしながら支援している		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項 目	自 己 評 価	外 部 評 価	
			実 施 状 況	実 施 状 況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と一緒に外出してくれる・・・3名 外出支援の日、数名の利用者でドライブや買い物、花見・外食等に出かける。 彼岸にお墓参りに行く人もいました。	天気の良い日は事業所周辺を散歩したり、近隣の公園にドライブに出かけるなど、利用者が季節を感じ気分転換できるよう支援している。 傾聴ボランティアの協力を得て外出支援を実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お財布を持っている人は3名。買い物に出かけて支払いをする人は1名です。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を書いて家族に送っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間が清潔でみんなが気持ちよく過ごせるように気をつけている。 季節の花を飾っている。	台所や食堂、居間は広々としたスペースで明るく清潔感があり、利用者は思い思いに過ごしている。 居間や廊下などにソファや作り付けのベンチが設置され利用者の居場所づくりや移動を手助けしている。 居間に接して畳敷きのスペースがあり、居心地良く生活できるよう工夫している。 広いベランダでは多種多様な花を育て、季節を感じたりゆっくりお茶を飲むなど楽しむことができる。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項 目	自 己 評 価	外 部 評 価	
			実 施 状 況	実 施 状 況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にソファやいすが置いてある。廊下にベンチがあり、自由に過ごすことができる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具、テレビ等がおいてあり、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には家族等の写真やテレビ、座り机、タンス、本などを持ち込んでもらい、利用者が安心して暮らせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室にトイレがあり自立した生活を送っています。トイレが認識できない人にも自室のトイレで安全に排泄ができるよう誘導援助を行っています。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	☐ 1, ほぼ全ての利用者の ☐ 2, 利用者の2/3くらいの ☐ 3, 利用者の1/3くらいの ☐ 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	☐ 1, 毎日ある ☐ 2, 数日に1回程度ある ☐ 3, たまにある ☐ 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	☐ 1, ほぼ全ての利用者が ☐ 2, 利用者の2/3くらいが ☐ 3, 利用者の1/3くらいが ☐ 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	☐ 1, ほぼ全ての利用者が ☐ 2, 利用者の2/3くらいが ☐ 3, 利用者の1/3くらいが ☐ 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	☐ 1, ほぼ全ての利用者が ☐ 2, 利用者の2/3くらいが ☐ 3, 利用者の1/3くらいが ☐ 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	☐ 1, ほぼ全ての利用者が ☐ 2, 利用者の2/3くらいが ☐ 3, 利用者の1/3くらいが ☐ 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	☐ 1, ほぼ全ての利用者が ☐ 2, 利用者の2/3くらいが ☐ 3, 利用者の1/3くらいが ☐ 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	☐ 1, ほぼ全ての家族と ☐ 2, 家族の2/3くらいと ☐ 3, 家族の1/3くらいと ☐ 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	☐ 1, ほぼ毎日のように ☐ 2, 数日に1回程度ある ☐ 3, たまに ☐ 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	☐ 1, 大いに増えている ☐ 2, 少しずつ増えている ☐ 3, あまり増えていない ☐ 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	☐ 1, ほぼ全ての職員が ☐ 2, 職員の2/3くらいが ☐ 3, 職員の1/3くらいが ☐ 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	☐ 1, ほぼ全ての利用者が ☐ 2, 利用者の2/3くらいが ☐ 3, 利用者の1/3くらいが ☐ 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	☐ 1, ほぼ全ての家族等が ☐ 2, 家族等の2/3くらいが ☐ 3, 家族等の1/3くらいが ☐ 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム 陽だまり

作成日 平成22年8月20日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	2ヶ月に1回運営推進会議を開催する。会議結果を家族等に送付している広報誌などで知らせる。	2ヶ月に1回運営推進会議を開催する。会議結果を家族等に公表しサービスの質の向上を図る。	会議結果を陽だまりニュースで知らせる。	H22年9月
2	6	玄関の施錠を含め身体拘束の弊害を理解し、身体拘束をしないケアの実践に取り組む。	利用者の生命の安全を確保し、危険を回避する。	安全配慮計画書を作成し転倒等の危険が少なくなると拘束を終了しています。	実施
3	10	2ヶ月に1回広報誌を発行し家族等に送付しているので、面会の少ない家族等には意見を記入する用紙を同封し、要望等を汲み上げ運営に反映させる。	利用者・家族等の意見を反映し、サービスの質の向上を図る。	5/31発行の陽だまりニュースを送付するときから利用者・家族等の意見を記入する用紙を同封しています。意見を記入して下さる家族があり援助を実施しています。	実施
4	35	夜間想定や非常階段を使用した避難訓練を実施するとともに、総合訓練には近隣住民にも参加を呼びかけ、災害時の協力体制の強化を図る	災害時の協力体制の強化を図る	併設施設の協力を受けて、夜間想定や非常階段を使用した避難訓練を実施しています。	実施
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。